

整理番号	110	事業名 〔地区名〕	道路橋りょう改良事業(県単) 〔猪苗代町 壺楊本町線 関都工区〕	全体事業費 (百万円)	1,380	採択年度	H11	完成目標年度*	R5 (H35)	担当部(局)課名	土木部 道路整備課
------	-----	--------------	-------------------------------------	----------------	-------	------	-----	---------	-------------	----------	-----------

※完成目標年度は、標準的な工程を想定して設定しているが、毎年度の予算は担保されたものではなく、用地取得状況や施工上の条件変化等、不確定な要素があるため、確定したものではない。

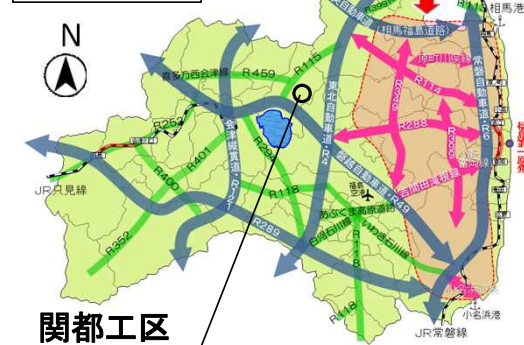
評価対象理由	前回評価時(平成26年度)から5年経過で継続中	前回評価時の対応方針	委員会からの提言: 事業継続、付帯意見等: 無し、県の対応方針: 事業継続
--------	-------------------------	------------	---------------------------------------

1 事業の概要

- 一般県道壺楊本町線(関都工区)は、国道49号と猪苗代市街地を連絡する生活幹線道路であり、合わせて県内有数の観光地である猪苗代湖と裏磐梯を連絡する観光機能も担う路線である。
- 車両すれ違い困難箇所解消により、特に観光シーズン等混雑時に発生していた渋滞の解消を図る。また、歩道新設により安全で安心した暮らしを支える道路の整備を図る。

位置図

- ふくしま復興再生道路 (8路線) (13路線)
- 基幹的な道路 (13路線)
- 地域連携道路 (19路線)



凡	例
(赤線)	評価箇所
(黒線)	供用済
(紫線)	国道
(緑線)	県道
(赤線)	現道



一般県道壺楊本町線(関都工区)の整備効果

- 車道拡幅による幅員狭小部車両すれ違い困難箇所の解消
- 観光施設を結ぶ猪苗代湖～裏磐梯間の連絡強化

2 事業の進捗状況等

評価基準 A:特に問題なし、B:問題あるが解決の見込みあり、C:問題があり解決が難しい

(百万円)

全体事業費		事業 執行済額	年度別執行額	
前回	今回 (前回差比)		~30年度	31年度見込
1,380	1,380 (±0%)	1,158	1,158	3

(1)現状及び見通し [評価(A)・B・C]

- 平成20年度までにL=1,300mを供用開始。平成20年度から残るL=440mの用地買収に着手した。
- 工事は、平成30年度末までに、77%完了。
- 平成31年度は、用地買収を実施予定。
- 用地買収に合意を得られていない地権者がいたが、継続して交渉した結果、用地買収に応じてもらえることとなった。

(2)期待される効果 [評価(A)・B・C]

- 車両すれ違い困難箇所の解消により、特に観光シーズン等混雑時において発生していた渋滞の解消
- 観光施設を結ぶ猪苗代湖～裏磐梯間の連絡強化
- 歩道新設による安全で安心した暮らしを支える道路の整備

(3)事業を巡る社会経済情勢の現状・変化、地元住民等の意向 [評価(A)・B・C]

- 観光シーズン等混雑時は身動きが取れなくなる渋滞が発生していたこともあり、早期改良を望む声が多い。
- 猪苗代町長及び会津総合開発協議会会津若松地方支部から早期の全線改良を要望されている。

(4)評価指標の状況 [評価(A)・B・C]

評価指標	採択時 (H11)	前回 (H26)	完成時 (R5)	備考
国道49号と国道115号の連絡時間	13.6分	11.3分	10.8分	

【その他参考となる数値】

・現況交通量(H27) 2,664台/日 → 将来交通量(H42(R12)) 2,500台/日

(5)費用対効果の状況・要因の変化 [評価 A・(B)・C]

$$B/C = \frac{17.6+3.5+0.2}{19.8+0.9} = 1.03 \text{ (前回値1.53)}$$

- ・[B]道路事業における総便益(走行時間短縮便益+走行経費減少便益+交通事故減少便益の合計)
- ・[C]道路事業に要する総費用(道路整備に要する事業費+道路維持管理に要する費用の合計)
- ・用地買収の合意に時間を要し、供用開始が遅れたため、便益[B]が減少し、費用対効果が減少した。

【参考値】

$$B/C = \frac{17.6+3.5+0.2+1.1*1}{19.8+0.9} \times 1.642*2 = 1.78$$

*1: 追加便益: 1.1億円(冬期交通の効果、CO2排出削減効果、防災効果)

*2: 地域修正係数: 1.642(会津)

(6)コスト削減の取組・代替案の検討状況 [評価(A)・B・C]

- ・土砂置換えに替えが必要な軟弱地盤対策をセメント安定処理で対応
- ・再生材の積極的利用(路盤材・舗装材)
- ・1,300mが供用しており、残る区間の接続位置を踏まえると代替ルートの可能性はない。

3 評価

(1)県の対応方針案	(2)理由
事業継続	前回評価時と同様の効果発現が見込まれ、交通混雑の解消や地域の活性化に寄与するため、現計画のとおり事業を進める必要がある。